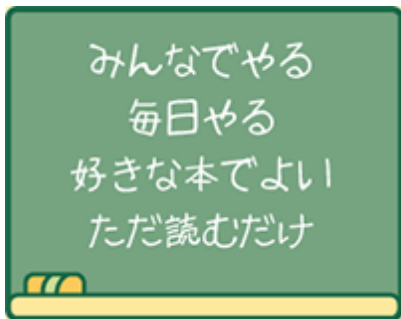




第一回 朝読書が始まります

期間 5月25日(木)～6月9日(金)
時間 8時20分～8時30分(10分間)

朝読書の4原則



※朝読書記録カードに、記入しましょう。
※雑誌やマンガ以外、読みましょう。
※本は前もって準備しておきましょう。



★・★・★・★・★・★・★・★. **新たな一歩を踏み出した**

フレッシュなあなたにこそいろいろなジャンルの本を

読んでほしい! ★・★・★・★・★・★・★・★.

若い人たちが本を読まなくなったと言われて、久しくなります。
若い人たちが本を読まなくなったという、年上の人たちの言葉は、若い時にこそ本を読むべきであったという、後悔の言葉でもあります。
あなた方のみずみずしい感性、好奇心、柔軟な思考、そうしたものを豊かに持ちあわせている〈若いとき〉に読書をすることは、あとの生き方に必ず大きな実りをもたらします。あなたの読書を日常のなにげない習慣にすれば、思いもかけない幸せな「本との出会い」がきっとやってくるに違いありません。

5月図書館企画 朝読書特集

朝読書、高校生に読ませたい本!



『18歳成人になる前に学ぶ契約とお金の基本ルール』

成人年齢引き下げで消費者トラブルが急増!? エステ・整形・サブスク・フリマアプリ・スマホ・SNS でつながる子どもたちに身近なルールブック! 2022年4月の成年年齢引き下げ(18歳成人)により、若年層の消費者トラブルの増加が懸念されています。カードローン、ネット通販、フリマアプリ、マルチ商法など、10代の若者を対象にしたさまざまな「消費の落とし穴」を紹介しながら、契約とお金の基本ルールについて、ストーリーマンガをまじえながらわかりやすく解説していきます。

『君たちが生き延びるために』 天童荒太著

幸せになるには、自分を大事にして生きることが大前提。

では「自分を大事にして」とはどんなことか? 高校生との実際の対話を糸口にした木賞作家が、今を生きる若い人に贈る渾身のメッセージ。

『感覚過敏の僕を感じる世界』 加藤路瑛著

多くの人が悩んでいる、五感が過敏すぎて日常生活に不具合が出る感覚過敏。その特有の感じ方を、「子どもの気持ち」と「おとなの視点」を併せ持つ16歳の著者が伝えます。「感覚過敏で困ること」とその対処法がわかります

『ほんとうの多様性について話をしよう』 サンドラ・ヘフェリン著

人気エッセイストであり、ハーフの当事者による、ほんとうの多様性入門。誤解と偏見だらけのニッポンの多様性を見つめなおしませんか?



外国人も日本人も、障がい者も健常者も、LGBTQの人もそうでない人も、みんなが居心地のいい社会をつくるためのヒントがここに。

『数奇な航海』 川井龍介著

死の灰を浴び、嫌われ、捨てられ、そして不死鳥のように復活した「私」運命の荒波に翻弄されたある船の物語。



朝読書、高校生に読んでほしい新刊！



『街とその不確かな壁』 村上春樹著

十七歳と十六歳の夏の夕暮れ……川面を風が静かに吹き抜けていく。彼女の細い指は、私の指に何かをこっそり語りかける。何か大事な、言葉にはできないことを——高い壁と望楼、図書館の暗闇、古い夢、そしてきみの面影。自分の居場所はいったいどこにあるのだろう。村上春樹が長く封印してきた「物語」の扉が、いま開かれる。



『トワイライト』 畑野智美著

森谷未明は進学のために福島県から上京し、三軒茶屋でひとり暮らしをはじめ。感染症の影響もあり、憧れていたような学生生活は送れず、近くに住むいとこで小説家の信一の家遊びにいくぐらいしかできない。ある日、思い切って、本屋「twilight」に入ったことから、未明の生活は変わっていく。友達と出会い、夜の街を歩き、初めてのお酒を飲む。そして、恋をする。twilightの屋上から眺める夕暮れに染まる三軒茶屋、未明は何を探し、何を見つけるのか。きっと誰もが、この物語の中にいる。



『マイ・リトル・ヒーロー』 冲方丁著

オンラインゲームを通して、父と息子の絆と成長を描く。意識不明の息子からゲーム内に届いたメッセージ。息子を救うため、父はeスポーツの世界大会を目指す。暢気なだけが取り柄の暢光は、事業を興しては失敗し、妻から離婚を言い渡される始末。離れて暮らす中2の息子と小3の娘とはオンラインで会うばかりで、オンラインゲームは最後の砦となっている。そんな中、息子の凛一郎が交通事故に遭い、意識不明に。悲しみに暮れる暢光だったが、ゲーム内で息子からメッセージが届く。ゲームを通して成長し、繋がっていく、新しい家族の物語。



『ほんぼん彩句』 宮部みゆき著

俳句と小説の新しい出会い。17音の奥に潜む繊細で彩り豊かな12の物語。「俳句」という僅か17音で作られた世界の奥にはどんな物語が潜んでいるのか。

『イット・エンズ・ウィズ・アス ふたりに終わらせる』 コリーン・フーヴァー著

フラワーショップを開業したばかりのリリーと、脳神経外科医のライルは、情熱的な恋に落ち結婚。仕事もプライベートも充実した毎日だったが、ライルには幼い頃のトラウマがあることが発覚。最後の最後まで心を揺さぶりつづけ、全米の女性をとりこにした恋愛小説！



『オール・ノット』 柚木麻子著

友達もいない、恋人もいない、将来の希望なんてもったない。貧困にあえぐ苦学生の真央が出会ったのは、かつて栄華を誇った山戸家の生き残り、四葉。「ちゃんとした人にはたった一回の失敗も許されないなんて、そんなのおかしい」彼女に託された一つの宝石箱が、真央の人生を変えていく。



『月と散文』 又吉直樹著

センチメンタルが生み出す爆発力、ナイーブがもたらす激情。いろんなものが失くなってしまった日常だけれど、窓の外の夜空には月は出ていて、書き掛けの散文だけは確かにあった。



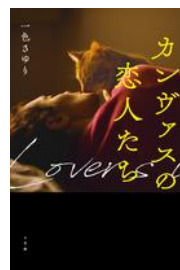
『くもをさがす』 西加奈子著

2021年コロナ禍の最中、滞在先のカナダで浸潤性乳管がんを宣告された著者が、乳がん発覚から治療を終えるまでの約8ヶ月間を克明に描いたノンフィクション作品。カナダでの闘病中に抱いた病、治療への恐怖と絶望、家族や友人たちへの溢れる思いと、時折訪れる幸福と歓喜の瞬間。切なく、時に可笑しい、「あなた」に向けて綴られた、誰もが心を揺さぶられる傑作です。



『カンヴァスの恋人たち』 一色さゆり著

碧波市の美術館に勤める学芸員の貴山史絵は、80歳の女性画家、ヨシダカヲルの展覧会を担当することになる。ヨシダは美術業界から一線を退いたあと、山奥のアトリエでひとり絵を書き続けていた。一時は戦後の女性画家として名を上げていたにもかかわらず、なぜ表舞台から消えてしまったのか。ふたたび絵を描き始めるまでの空白の10年間に何があったのか。ふたりが心を通わせたとき、ヨシダが語るのは、秘められた愛についてだった。



※ぜひ、図書館へ